

- 問1 熊本県から出土した鉄刀の銘文に漢字が刻まれており、当時の日本で漢字が使われていたことを示す古墳を何という？
- 問2 仏教を深く信仰し、政治や文化に取り入れることで、新しい文明の定着に努めた人物は誰？
- 問3 6世紀、日本への仏教伝来に際して、その導入に賛成した有力な豪族は誰？
- 問4 ヤマト王権が、軍事的な指揮権を認めてもらうために使者を送り、鉄資源などの確保を目指した地域はどこ？
- 問5 5世紀ごろ、日本に漢字や経典を伝えたと言われる、百済から来た人物は誰？
- 問6 儒教の伝来とともに日本に広まった、孔子の教えを記した書物を何という？
- 問7 古墳時代に輸入された鉄を利用して作られ、農業生産力を向上させた道具を何という？
- 問8 5世紀ごろ、百済の博士として日本に派遣され、漢字とともに儒教を伝えた人物は誰？
- 問9 ヤマト王権が鉄資源を求めて使者を派遣した、中国の当時の王朝を何という？
- 問10 4世紀から7世紀にかけて近畿地方を中心に勢力を広げた勢力を何という？
- 問11 5世紀のヤマト王権が、外交のために使者を派遣していた中国の王朝はどこ？
- 問12 大阪府に位置する、日本最大の前方後円墳として世界文化遺産にも登録されている古墳を何という？
- 問13 ヤマト王権の支配力が関東地方まで及んでいたことを示す、埼玉県から出土した重要な鉄剣が見つかった古墳を何という？
- 問14 日本各地で首長の墓が作られ、広い範囲で勢力を広げていた当時の政治的なまとまりを何という？
- 問15 中国の歴史書『宋書』に記されている、ワカタケル大王（雄略天皇）と同一人物と考えられる王を何という？
- 問16 5世紀後半にヤマト政権の最高権力者が用いた称号を何という？
- 問17 中国から軍事的な指揮権を認められ、国内での権力強化を図った王たちの総称を何という？
- 問18 熊本県和水町にあり、稲荷山古墳と同じ大王の名が刻まれた鉄刀が出土したことで知られる古墳は何という？
- 問19 稲荷山古墳などの出土品に名前が刻まれ、その支配が九州から関東まで及んでいたと言われる大王は誰？
- 問20 6世紀、百済から日本へ正式に伝えられ、日本の政治や文化に大きな影響を与えた宗教を何という？
- 問21 3世紀後半から奈良盆地を中心に広がり、各地の豪族を従えて日本列島の広範囲に勢力を及ぼした政治連合は何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 江田船山古墳	江田船山古墳からは、金銀象嵌（ぞうがん）が施された鉄刀が出土しました。その刀には、所有者や当時のヤマト政権の王に関係すると思われる漢字が刻まれていました。これは、5世紀から6世紀にかけて、日本の地方豪族が漢字を読み書きし、ヤマト政権との間で政治的なやり取りを行っていたことを裏付ける重要な史料です。
問2	答え 聖徳太子	聖徳太子は仏教の教えを「和」の精神として政治の基礎に据えました。「十七条憲法」を制定して役人の心構えを示し、「冠位十二階」で才能に基づいた官職登用を目指しました。また、法隆寺の建立などを通じて仏教文化を保護し、国全体に新しい文明が定着するように努めました。
問3	答え 蘇我氏	蘇我氏は、百済から伝わった仏教の持つ高度な知識や技術にいち早く目をつけました。彼らは仏教を支持することで、他の豪族との競争において優位に立つと考えました。一方、物部氏などの反対勢力は、伝統的な神々を軽視するものとして武力で対立しました。最終的に蘇我氏が勝利し、仏教が公認されることとなりました。
問4	答え 朝鮮半島	ヤマト王権は、半島南部の諸国との交流を強めることで、安定した鉄の供給を図りました。また、半島内での権益を確保するために中国の王朝へ使いを送り、自身の軍事的な立場を認めさせようとしていました。
問5	答え 王仁	王仁は伝説的な人物として『古事記』や『日本書紀』に記されており、百済の王から日本へ派遣されたとされています。彼は漢字を用いて記録する技術や、中国の古典を日本に伝えました。彼によってもたらされた知識は、当時の日本の知識層にとつての教科書となり、日本の文字文化の発展に決定的な影響を与えました。
問6	答え 論語	『論語』は、家族の絆や社会での礼儀、指導者としての誠実さを説いた書物です。日本に伝わると、漢字の学習教材として活用されるだけでなく、統治者やエリートの道德的教養として大切にされました。この書物を通じて、日本人は「人としてのあり方」や「社会秩序」という考え方を学びました。
問7	答え 鉄製農具	鉄製の鋤（すき）や鍬（くわ）などの鉄製農具が普及したことで、それまで開墾できなかった硬い土地の耕作が可能になりました。これにより稲作の効率が飛躍的に高まり、収穫量が増加しました。さらに鉄は武器の材料としても使われ、ヤマト王権の軍事力強化にも大きく貢献しました。
問8	答え 王仁	王仁は百済から派遣された博士であり、優れた学識で日本の朝廷に貢献しました。彼が『論語』や『千字文』をもたらしたという伝説は、日本の学問が大陸から本格的に導入されたことの象徴とされています。王仁の存在は、日本人が漢字を習得し、中国の進んだ統治の知恵である儒教を学ばきっかけとなったとされています。
問9	答え 南朝	ヤマト王権は、中国との外交関係を通じて、その権威を借ることで半島への影響力を強めようとしていました。中国へ使者を派遣して朝貢することで、最新の技術や鉄資源を優先的に入手しようとしたのです。当時の中国は南北朝時代であり、南方に位置する「南朝」と主に外交関係を持っていました。
問10	答え ヤマト王権	ヤマト王権は、近畿地方を中心に各地の豪族と連合して国内を統治する政治組織です。有力な豪族を従え、朝鮮半島との外交や、大陸からの進んだ技術を取り入れることで富を蓄えました。大王を中心とした豪族の連合体という性格が強く、次第に中央集権的な国家へと変化していきます。
問11	答え 南朝	ヤマト王権の指導者たちは、半島での影響力を強める正当性を得るため、南朝の皇帝へ使者を派遣しました。朝貢と呼ばれる形式をとることで、中国皇帝から將軍の号を授かり、国内の支配を強化しようとしていました。
問12	答え 大仙古墳	大仙古墳（伝仁徳天皇陵）は、墳丘の長さが約486メートルにも及び日本最大の前方後円墳です。三重の濠（ほり）に囲まれた壮大な姿をしており、ユネスコの世界文化遺産にも登録されています。当時の王権が、いかに巨大な労働力や土木技術を動員する力を持っていたかを象徴する遺跡です。
問13	答え 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌で文字が刻まれていました。この文字には「ワカタケル大王」という当時のヤマト王権の王の名前と、その王に仕えた人物の系譜が記されています。これによって、関東地方の豪族がヤマト王権と密接な関係を持っていたことが証明されました。
問14	答え ヤマト王権	ヤマト王権は、古墳の築造や鉄製品の供給などを通じて各地の豪族を統制しました。王は各地の豪族に地位や官職を与え、権力体制に組み込んでいくことで日本全国への支配を強めました。前方後円墳が全国に築かれていることは、この勢力が全国に及んでいた証拠といえます。
問15	答え 倭王武	中国の歴史書である『宋書』には、倭国の王の名前が記されており、その中の「武」は、国内の遺跡から発見された鉄剣の銘文にある「ワカタケル大王（雄略天皇）」のことだと考えられています。これにより、日本の歴史がアジアの国際情勢の中で位置づけられるようになりました。
問16	答え 大王	この時期の最高権力者は「大王（おおきみ）」という称号で呼ばれ、各地の豪族を従えて国を治めました。埼玉県や熊本県の古墳から出土した鉄剣の銘文にも「ワカタケル大王」という記述が見られ、当時の王権が地方へ影響力を持っていたことがわかります。
問17	答え 倭の五王	宋書という中国の歴史書に登場する「讃・珍・済・興・武」の5人の王を指します。彼らは南朝の皇帝から「倭王」として認められ、朝鮮半島での軍事的な指揮権などを追認されました。この外交的承認を利用することで、彼らは国内の豪族に対して優位に立ち、自らの権威をより確固たるものにしました。
問18	答え 江田船山古墳	江田船山古墳は、熊本県に位置する5世紀から6世紀頃の古墳です。ここから出土した鉄刀には、稲荷山古墳のものと同じワカタケル大王の名が記されており、ヤマト王権の影響力が九州の地まで深く及んでいたことを示しています。また、これらの出土品は、当時の武器や装飾品の様式を知るためにも重要です。
問19	答え ワカタケル大王	「ワカタケル大王」の名は、埼玉県と熊本県の古墳から出土した鉄剣・鉄刀に金象嵌で記されています。これは、この大王の権力が東国から九州まで、列島の広範囲に及んでいたことを如実に示しています。一般的には、記紀に見える雄略天皇と同一人物だと考えられています。
問20	答え 仏教	仏教の伝来は単なる宗教の広まりにとどまらず、新しい文明の到来を意味しました。特に、仏教が持つ高度な建築技術、芸術、そして教えは、当時の朝廷にとって大きな魅力でした。そのため、仏教を受け入れるかどうかを巡り、蘇我氏と物部氏の間で激しい争いが起こるなど、政治的な影響も及ぼしました。
問21	答え ヤマト王権	ヤマト王権は、現在の奈良県周辺を拠点とし、強大な力を持った豪族の連合体です。大王を頂点として組織され、各地の豪族を服属させることで支配地域を拡大していきました。朝鮮半島との外交や、大陸の進んだ技術の導入に積極的に取り組んだのが特徴です。